

山口県森林Jークレジット取組事例集

～未来へつなぐ森林資源の循環を目指して～



令和8年（2026年）3月

山口県農林水産部

はじめに

森林は、地球環境を守り、私たちの生活を支えるかけがえのない資源です。山地災害の防止をはじめ、水源の涵養・快適な生活環境の形成など、人々にとって有益な多面的機能を有しており、なかでも、CO₂の吸収機能は、地球温暖化対策として重要な位置を占めています。

こうした貴重な森林資源を活かし、地域社会や企業との連携を図りながら環境保全と経済的メリットを両立する仕組みが、森林由来のクレジット（以下「森林Ｊークレジット」）制度であり、間伐などの森林の適切な管理を行うことによるCO₂吸収量を、クレジットとして国が認証するものです。

森林Ｊークレジットを活用することにより、森林所有者や林業事業体等のクレジット創出者は、その売却益をもって、さらなる森林整備が可能となる一方、企業等の購入者は、温室効果ガス排出量のオフセットや、地域貢献による企業価値の向上等に活用することができるなど、多くのメリットがあります。

本事例集は、県内における森林Ｊークレジットへの取組成果等をまとめたものであり、実際に創出された皆様の取組経緯や苦労・工夫、さらには、アピールポイントなどとともに、購入された皆様の声を掲載しています。

この事例集が、森林Ｊークレジット活用に向けての第一歩を踏み出すきっかけとなり、その結果、森林の可能性が最大限に発揮され、県内の森林がより健全な状態で次世代へと引き継がれていくとともに、脱炭素社会の実現につながっていくことを願っています。



目次

Jークレジット制度とは	1
-------------------	---

- Jークレジット制度とは ● クレジット創出の手順
- 森林 Jークレジットの創出 ● 森林 Jークレジットのメリット

事例集	6
-----------	---

森林 Jークレジット創出事例	7 ~ 15
----------------	--------

- ◆ 公益財団法人 やまぐち農林振興公社
- ◆ 吉川林産興業株式会社
- ◆ 長門市
- ◆ 山口県東部森林組合
- ◆ 山口県西部森林組合（準備中の取組事例）

森林 Jークレジット購入事例	17 ~ 20
----------------	---------

- ◆ 株式会社イトーキ
- ◆ 東洋鋼鈑株式会社
- ◆ 株式会社 日本旅行
- ◆ 一般財団法人 山口県環境保全事業団

参考	21
----------	----

J-クレジット制度とは

本制度は、省エネルギー設備・再生可能エネルギーの導入や適切な森林管理による温室効果ガスの排出削減・吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。

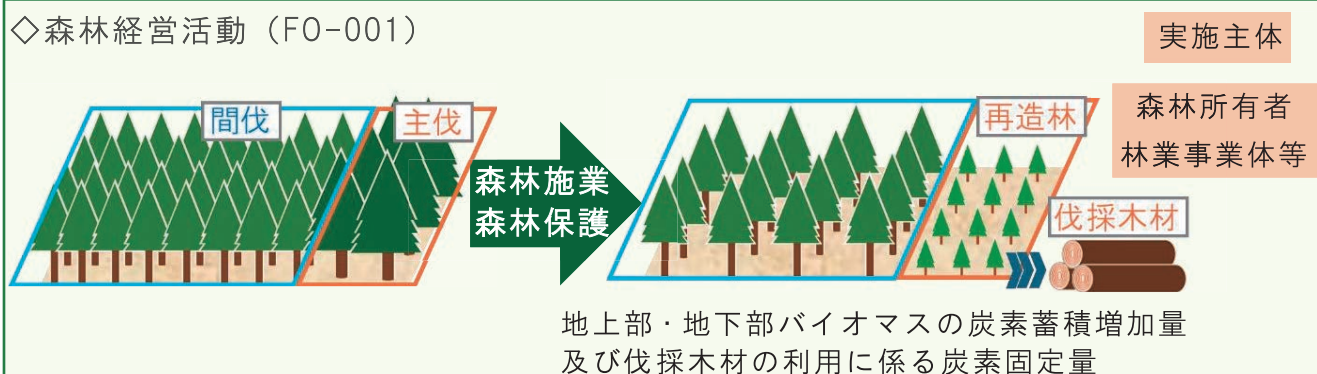
J-クレジットには、温室効果ガスの排出を抑える削減系と大気中のCO₂を吸収する吸収系の2種類があります。森林分野の取組は吸収系に分類されます。

J-クレジットの種類

区分	分野	方法論 (取組要件や排出削減・吸収量の算定方法を規定した文書)
削減系	省エネルギー	ボイラーの導入、ヒートポンプの導入、空調設備の導入 等
	再生可能エネルギー	バイオマス固形燃料による化石燃料又は系統電力の代替、太陽光発電設備の導入、再生可能エネルギー熱を利用する熱源設備の導入等
	工業プロセス	マグネシウム溶解鑄造用カバーガスの変更、CO ₂ 吸収型コンクリートの使用 等
	農業	水稻栽培における中干し期間の延長、バイオ炭の農地施用 等
	廃棄物	微生物活性剤を利用した汚泥減容による焼却処理に用いる化石燃料の削減 等
吸収系	森林	森林経営活動、植林活動、再造林活動

森林分野の3つの方法論

◇森林経営活動 (FO-001)



◇植林活動 (FO-002)



◇再造林活動 (FO-003)



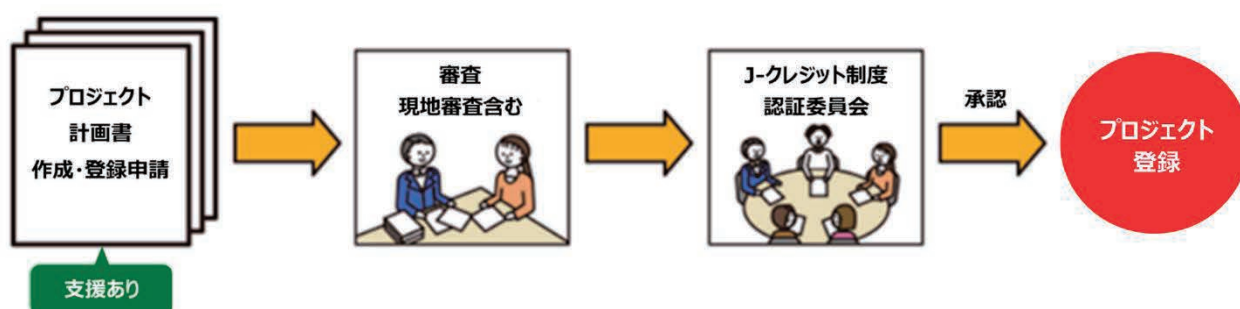
クレジット創出の手順

クレジットの認証・発行までには、プロジェクトの登録とモニタリング（削減量や吸収量を算定するための計測等）の2つのステップがあります。

プロジェクトの登録には審査費用が必要です。一部、審査費用の支援や書類作成支援があります。詳細はJ-クレジット制度事務局のホームページでご確認ください。

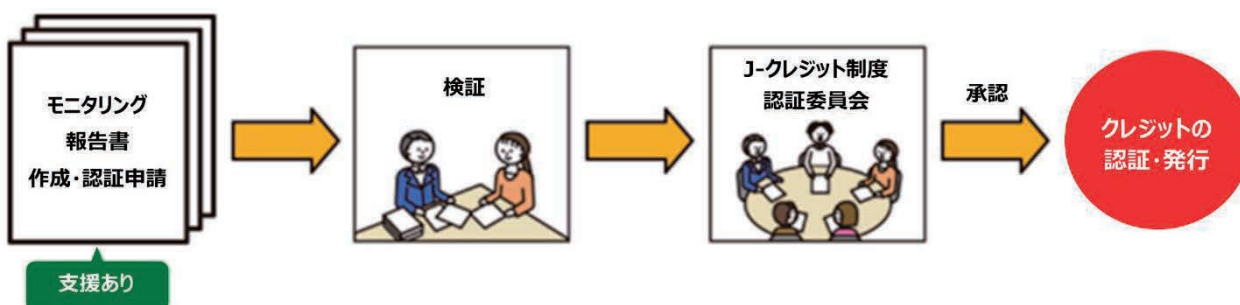
（１）プロジェクトの登録

「どのようなCO₂排出削減/吸収事業（省エネ設備の導入、森林管理等）を実施するか」を記載した計画書を作成します。



（２）モニタリングの実施

プロジェクト計画に基づき、排出削減量/吸収量を算定するための計測を行います。計測結果に基づき、排出削減量/吸収量を算定し、報告書を作成します。



出典：J-クレジット制度ホームページ（<https://japancredit.go.jp/>）

※ここでは制度の概要のみ説明しています。実際に取り組む際は以下をよくご確認ください。ととも、申請様式等は頻繁に改訂されるため最新の情報を十分ご確認ください。

○制度文書（規程類）、方法論、申請様式、各種支援に関すること

J-クレジット制度事務局「J-クレジット制度」

（<https://japancredit.go.jp/about/methodology/>）

○創出のコツやポイント

林野庁「森林由来J-クレジット創出者向けハンドブック」

（https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/J-credit.html）

森林Jークレジットの創出

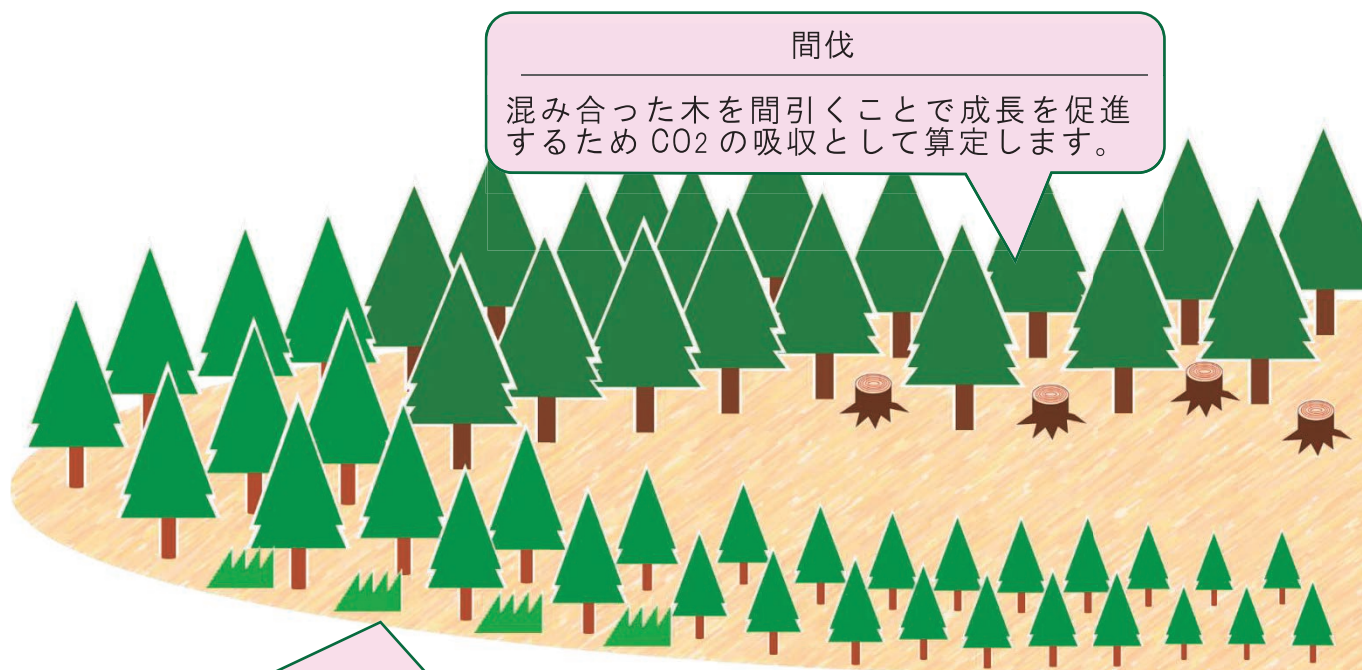
ここでは、森林分野の方法論のうち最も一般的な森林経営活動(FO-001)について簡単に紹介します。取組にあたっては、中長期的な視点で持続的に森林を管理・経営することが前提となっていることから、森林法に基づく森林経営計画の認定が必要となります。

【対象となる森林と活動】

- (1) 1990年以降に施業を実施し、認証対象期間中に保護を実施した育成林
- (2) 認証対象期間中に施業を実施した育成林
- (3) 認証対象期間中に保護を実施した天然生林（保安林などの制限林に限る）

【適用条件】

- (1) 登録は森林経営計画単位です。計画に沿って森林の施業や保護を実施します。
- (2) 主伐（排出見込量）を含む場合は、認証対象期間中の吸収見込み量の累計が正である必要があります。 $\text{吸収見込量} - \text{排出見込量} > 0$
- (3) 認証対象期間中に、森林経営計画に基づく間伐を1箇所以上計画する必要があります。（計画的間伐対象森林がない場合は造林又は保育が1箇所以上）
- (4) 土地転用が計画されている場合は取り組めません。
- (5) 認証対象期間中及び認証対象期間終了後10年を経過するまでの間、森林経営計画を立て続ける必要があります。
- (6) 環境社会に配慮し持続可能性を確保するため森林法等を遵守してください。



保育：下刈り、つる切り、除伐、枝打ち

周辺の雑草木を除いたり不要な下枝を除いたりすることで成長を促進するため CO2 の吸収として算定します。

【認証対象期間】

8～16年 の間で設定できます。

※認証対象期間終了後10年間は森林経営計画を立て続ける必要があります。

【算定対象期間】

間伐等の施業及び保護を実施した時点から年々の吸収量を算定できるようになります。

特に、1990年以降に施業履歴がある育成林や天然生林（保安林などの制限林に限る）は、認証対象期間中に森林の保護を実施すれば、その年度以降のすべての認証対象期間が吸収量の算定対象となり、クレジットの発行量も大きくなります。

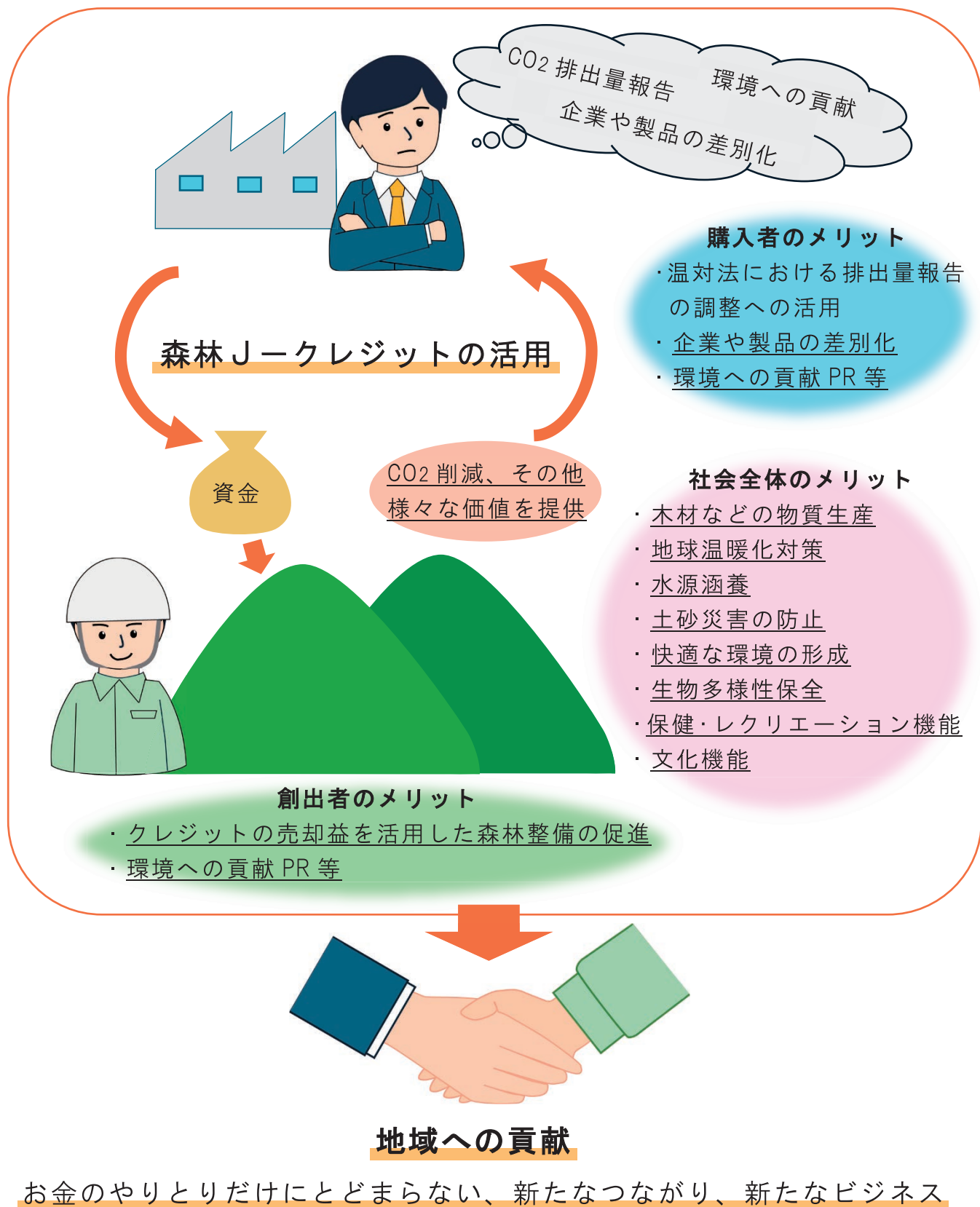
※単に森林があれば良いのではなく、施業や保護を行うことで追加的に吸収した部分がクレジットとして認証されます。

※意図的に主伐の時期をずらす、主伐予定箇所を外して計画を立てることはできません。



森林Jークレジットのメリット

森林Jークレジットを活用することで、創出者や購入者だけでなく、社会全体に環境価値を提供することができます。また、クレジットの売買を通じた新たなつながりの創出が期待されます。



【事例集】

森林Ｊーケレジット創出事例

◆公益財団法人 やまぐち農林振興公社

1 概要

○これまでの歩み

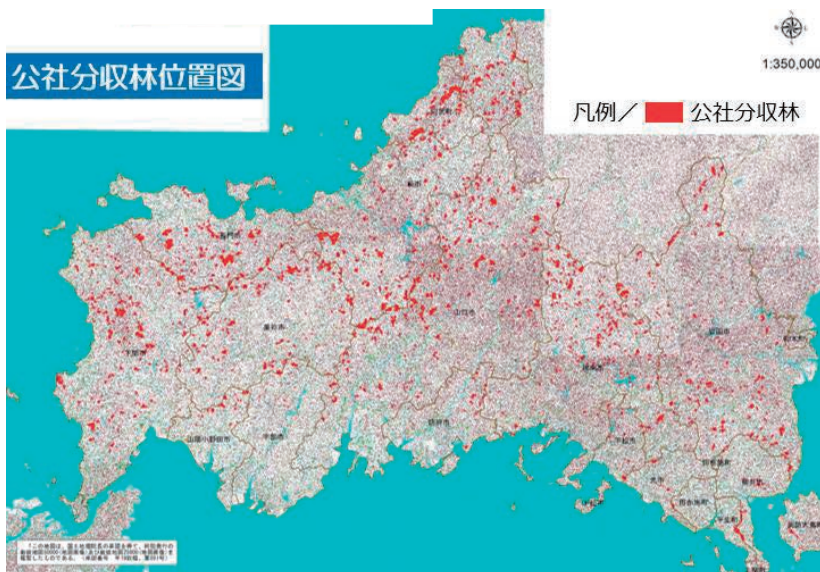
当公社は、昭和41年5月、分収造林事業に取り組むため、「財団法人山口県林業公社」として設立され、その後、平成11年4月、林業関係団体との統合により、「財団法人やまぐち森と緑の公社」、平成16年4月、農業関係団体との統合により、「財団法人やまぐち農林振興公社」、さらに、平成25年4月、公益財団法人の認定を受け、「公益財団法人やまぐち農林振興公社」として現在に至っています。

○事業内容

当公社は、本県の農林水産業の持続的かつ健全な発展並びに農地及び森林の有する多面的機能の発揮を図り、農山漁村の振興及び県民福祉の向上に寄与する目的のもと、公益財団法人として、県民の負託に応えられるよう、各業務（農林水産業の担い手の確保・育成、農地の中間管理、森林の整備、緑化の推進）に取り組んでいます。

森林の整備においては、良質な木材の生産のみならず、県土の保全、二酸化炭素の吸収・固定など森林の持つ多面的な機能を長期にわたって発揮させるため、長伐期施業体系に沿った森林管理を計画的に実施しています。

2 森林Jークレジットに取り組む森林の所在や特徴



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50000（地図画像）及び数値地図25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平19総複、第891号）

○森林の所在

下関市、宇部市、山口市、萩市、防府市、下松市、岩国市、光市、長門市、柳井市、美祢市、周南市、山陽小野田市、周防大島町、田布施町、平生町、阿武町（17市町）

○所有森林の特徴

森林所有者との分収造林契約に基づき、当初の50年契約を80年契約に延長する長伐期施業を推進し、収益性と公益性の増大を図っています。（契約件数：2,077件、契約面積：14,212.87ha）

3 2025年12月末時点の取組状況

登録承認日	認証対象期間	実施面積	吸収見込量
2024.6.6	2023.4.1～2031.3.31	10,874.57ha	442,219t-CO ₂

認証承認日	クレジット対象期間	認証を受けたクレジット量
2025.1.7	2023.4.1～2024.3.31	85,683t-CO ₂
2025.9.30	2024.4.1～2025.3.31	82,855t-CO ₂

※登録承認日及び認証承認日は、Jークレジット制度認証委員会の開催日

4 森林Jークレジットに取り組んだきっかけ（経緯・理由）

当公社では、分収造林事業の経営改善の一環として、国（経済産業省、農林水産省、環境省）が進めるJークレジット制度に令和3年度から着手しました。

公社がJークレジットを活用し、クレジット販売を通じて外部資金を獲得することは、公社の経営改善に寄与するとともに、公社が適正な森林管理を行いカーボンニュートラルに貢献していることへの認知度を高めることにも繋がります。

5 苦労したこと、工夫したこと

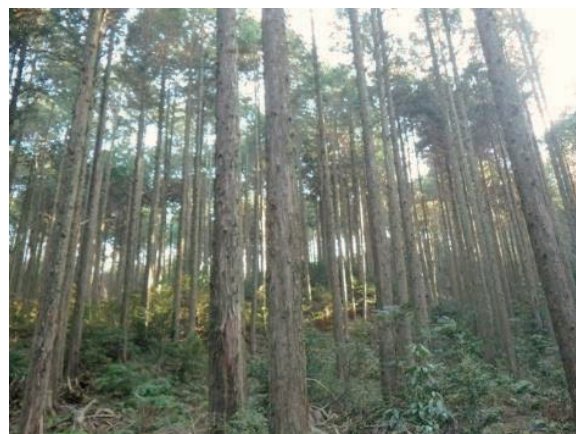
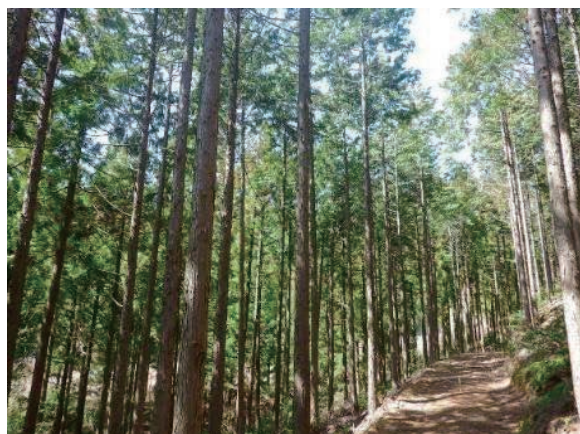
計画書の作成やモニタリングの調査に当たり、航空レーザ測量のデータを利用すれば、実地調査の調査項目（立木本数、胸高直径、樹高）が不要となるなど利便性があると考えました。しかしながら、県には全県をカバーした航空レーザ測量のデータがなかったため、計測範囲や費用等、公社内で収益性（費用対効果）の観点から検討を重ねました。

その結果、県内の分収造林地をカバーしたものを作成することとし、先進地視察や先進事例などを総合的に判断し、Jークレジット制度を効率的に進めるためには、実績とノウハウを有する事業者と共同で取り組むこととしました。令和5年度から公募型プロポーザルで選定した三井物産株式会社と共同事業者として連携して取り組んでいます。

6 伝えたいこと（アピールポイント、販売方法など）

当公社では、県内の分収造林地の適正な管理で得られたJークレジットを、県内の企業・事業者を中心に販売（二酸化炭素(CO2)削減の地産・地消）する取り組みを進めています。

販売単価については、購入量や購入年数に応じた割引率を設定しております。県内の企業・事業者の皆様が購入しやすいよう配慮していますので、いつでもご相談ください。



公益財団法人やまぐち農林振興公社 森林部

所在地 山口県山口市桜島三丁目2番1号
山口県宮野庁舎3階

連絡先 083-924-5716（森林部）

URL <https://www.y-agreen.or.jp/>



◆吉川林産興業株式会社

1 概要

○これまでの歩み

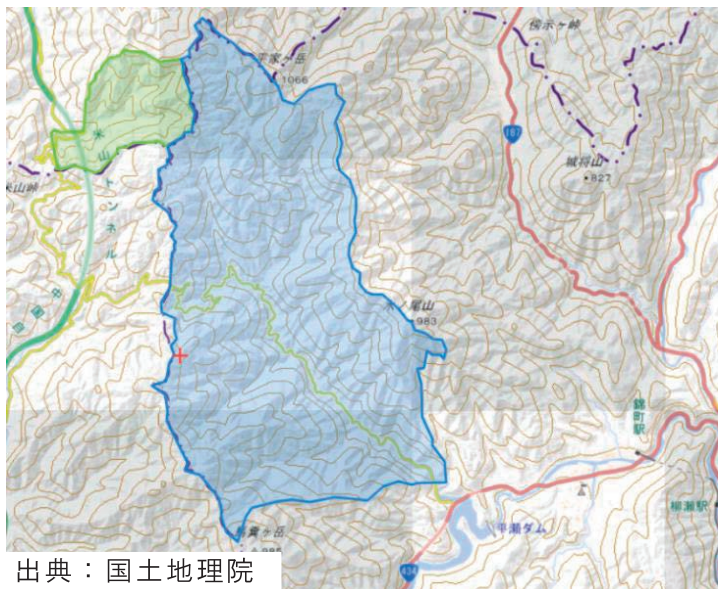
明治36年に旧岩国藩主吉川家が大面積の山林を購入し、林業経営に着手したことが始まりです。34年間で1,000haの造林地を作ること为目标に拡大造林が推し進められました。当初は吉川家が山林を所有し経営も直営で行っていましたが、昭和22年に所有と経営の分離を図るために吉川林産興業株式会社が設立され、伐採から造林・育林や木材運搬まで、すべてを手がけてきました。昭和51年から森林施業計画（現森林経営計画）を樹立し、早くから公益性を重視した森林施業に取り組んでいます。

○事業内容

社有林での伐採、造林、育林を主として、国有林等の外部請負事業（伐採・造林）や電力線保守のための特殊伐採事業等に取り組んでいます。



2 森林J-クレジットに取り組む森林の所在や特徴



出典：国土地理院
(<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>)
地理院タイル（淡色地図）を加工して作成

○森林の所在

岩国市錦町（左図青色）、島根県吉賀町（左図緑色）、東京都奥多摩町（左図省略）

○所有山林の特徴

山口県錦川の支流木谷川の源流域2,091haと島根県高津川の支流蓼野川の源流域261haを背中合わせで所有しており、優れた水源涵養機能を有した森林です。

人工林率は約57%で、残り約43%が天然林です。東京都奥多摩町の森林は56haで全てが天然林となっています。

3 2025年12月末時点の取組状況

登録承認日	認証対象期間	実施面積	吸収見込量
2024.1.26	2023.4.1～2033.3.31	1,379.09ha	61,612t-CO ₂
認証承認日	クレジット対象期間	認証を受けたクレジット量	
2025.7.29	2023.4.1～2024.3.31	1,954t-CO ₂	

※登録承認日及び認証承認日は、J-クレジット制度認証委員会の開催日

4 森林Jークレジットに取り組んだきっかけ（経緯・理由）

平成6年以降木材価格は下がり続け、現在も長期低迷したままの状態です。

所有山林から収入を得るためには、基本的には木材の売り上げ以外にはありませんが、現状の木材価格では、伐採して造林・育林を繰り返すという本来の林業経営が難しい状況にあります。一方で森林の持つ公益的な機能の価値は、地球温暖化や激甚化する豪雨災害等により日増しに高まっていると思われ、二酸化炭素の吸収源だけでなく、災害の防止や水源涵養機能といった価値が、新たな森林の価値として大きく見直されていくと考えました。

これまで社有林からの木材売上と、保安林制度や森林経営計画制度に基づく補助金を活用して、何とか健全な森林を維持するために努力してきましたが、森林の持つ公益的機能が新たな価値として形になるならそれを森林に還元して、公益的機能の極めて高い森林を、何としてでも次世代に引き継ぎたいという思いでJークレジットに取り組みました。

5 苦労したこと、工夫したこと

自社が本事業に取り組み始めた約5年前は、参考となる情報が非常に少なく、周囲にもJークレジットに取り組んでいる事業体はほとんどありませんでした。そのため、情報収集が最大の課題でしたが、その点についてはJークレジット制度事務局から多くのご指導をいただきました。

また、30年以上前の書類や野帳を探し出し、その内容を確認・整理する作業にも大変な労力を要しました。しかし、書類を一つひとつ読み解き、実際に現地を巡視する中で、これまで社有林に関わってきたすべての職員が、丁寧かつ誠実に仕事を積み重ねてきたことを実感することができました。

全ての書類を確認し、森林の巡視のために社有林を駆け回りながら作り上げた、手作りのJークレジットです。初めての挑戦で困難も多くありましたが、試行錯誤を重ねながらも、実直に作業を積み重ねることを工夫の一つとして取り組みました。

6 伝えたいこと（アピールポイント、販売方法など）

Jークレジットを生み出す木谷山林は、全国水源の森百選にも認定されている水源涵養機能が極めて高い森林です。元々長州藩の御立山（藩有林）であった森林で、地理的にも歴史的にも、公益的機能においても非常に価値のある森林だと思っています。長い間地域に貢献してきた森林からのクレジットで、貴重な水源林を次世代に残す役割を共有していただけたらと思います。



吉川林産興業株式会社

所在地 山口県岩国市横山2丁目7-6（岩国本社）
山口県岩国市錦町広瀬4979（木谷事業所）

連絡先 0827-41-0002（岩国本社）

URL <http://www.sky.icn-tv.ne.jp/~kikkawa7/>



◆長門市

1 概要

○これまでの歩み

長門市では、林野庁の林業成長産業化地域創出モデル事業に取り組み、2020年7月1日、地域林業の司令塔として「一般社団法人 リフォレながと」を設立しました。

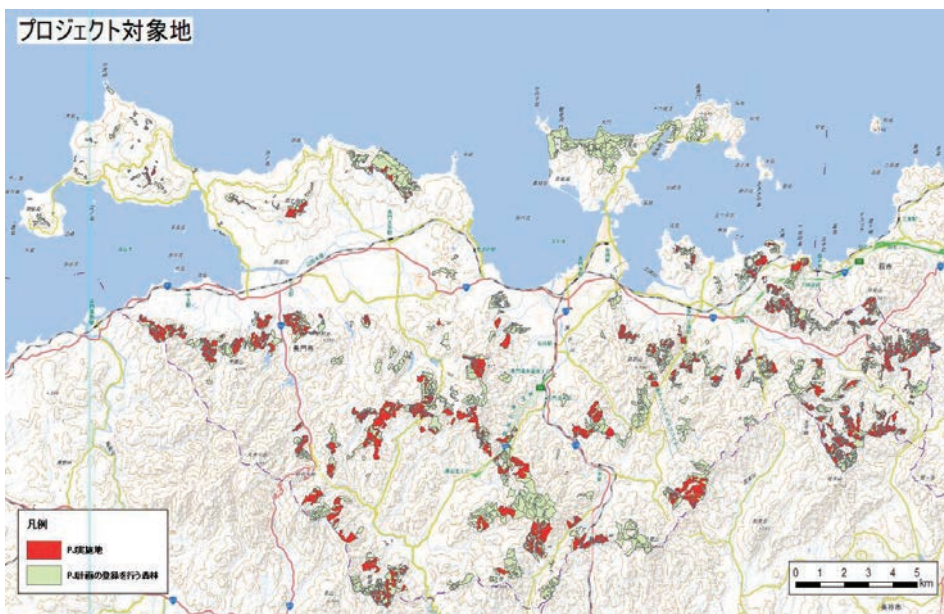
長門市林業木材産業成長産業化推進協議会において、市内の森林資源の整備や循環を進めるため、適切な森林管理を継続して行うために必要な取組の1つとしてJークレジットに取り組んでいます。2023年から具体的な検討を開始、2025年にJークレジット(森林経営活動:F0-001)の登録、2025年度中に初回の認証・発行予定です。

○事業内容

長門市有林4,505haを対象に適正な森林整備を実施し、Jークレジット創出に取り組んでいます。



2 森林Jークレジットに取り組む森林の所在や特徴



出典：国土地理院(<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>)
地理院タイル（標準地図）を加工して作成

○森林の所在

長門市有林（市内全域）

○所有森林の特徴

長門市有林
（主要樹種：スギ、ヒノキ、その他広葉樹、アカマツ、クロマツ）

3 2025年12月末時点の取組状況

登録承認日	認証対象期間	実施面積	吸収見込量
2025.7.29	2024.4.1～2040.3.31	2,203.67ha	117,961t-CO ₂

※登録承認日及び認証承認日は、Jークレジット制度認証委員会の開催日

4 森林Jークレジットに取り組んだきっかけ（経緯・理由）

長門市林業・木材産業成長産業化推進協議会において、市内の森林資源の循環を進める中で、私有林所有者が抵抗を感じている再造林費用や森林整備費の財源確保が森林由来のJークレジットに取り組む目的の一つです。

Jークレジット制度の取り組みは2018年頃から議論してきましたが、主伐・再造林を推進する本市にとって、主伐はCO2排出にカウントされるため、事業実施は困難と考えておりました。

2022年方法論改定により、プロジェクト実施地内で主伐をした場合、全量排出として計上されていたものが、伐採跡地に再造林を実施すれば標準伐期齢到達時点の炭素蓄積量までを吸収量として算定可能となりました。そのことで転機を迎え、事業実施の動きが加速しました。

5 苦労したこと、工夫したこと

主伐・再造林を推進している本市にとって、主伐による排出がJークレジット創出量へ影響を与えることから、今後の主伐による排出量の検討を詳細に実施した結果、クレジット発行に伴う収支計算が可能となりました。

Jークレジットを創出するためにはプロジェクト計画書やモニタリング報告書の作成が必要となります。本市では2019年に住友林業株式会社と林業および木材産業の成長産業化に向けた包括連携協定を結んでおり、2021～2023年には航空レーザ計測・森林資源解析を業務委託で実施しています。今回のJークレジットの創出についても住友林業株式会社へ業務委託しましたが、施業履歴の資料等は市で整理する必要があり、負担となりました。

また、長門市では有害鳥獣による被害も多いため、Jークレジット創出のための再造林地における獣害対策の体制構築を行いました。獣害対策は今後の継続課題となっております。

6 伝えたいこと（アピールポイント、販売方法など）

長門市では、林業成長産業化地域構想に基づき、適正な森林整備に取り組んでいきます。Jークレジットの販売収益は、私有林の再造林や森林整備の財源として活用することで、林業の支援、森林が持つ多面的機能の向上、豊かな海へつながる豊かな森づくりに寄与するものと考えております。また、長門市有林Jークレジットを購入していただくことで、環境問題へ取り組まれる企業の姿勢が長門市の支えとなり、森林保護や地域貢献へ繋がります。

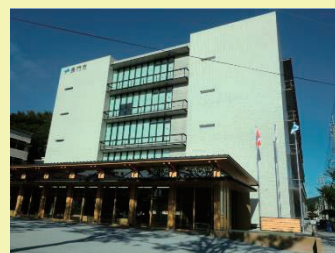
Jークレジットの販売は、（一社）リフォレながとと販売促進を図るほか、森林価値創造プラットフォーム「森かち」を活用して販売予定です。

長門市経済産業部農林水産課林業振興班

所在地 山口県長門市東深川 1339 番地 2
長門市役所 2 階

連絡先 0837-23-1142

URL <https://www.city.nagato.yamaguchi.jp/soshiki/15/>



◆山口県東部森林組合

1 概要

○これまでの歩み

平成7年12月に山口県東南部の旧1市8町を所管する6森林組合が広域合併して設立されました。平成17年2月に隣接3町を所管する3森林組合を吸収合併し、平成30年6月1日に錦川森林組合と合併しました。令和4年6月1日に周南森林組合及び光大和森林組合を合併し、現在に至ります。

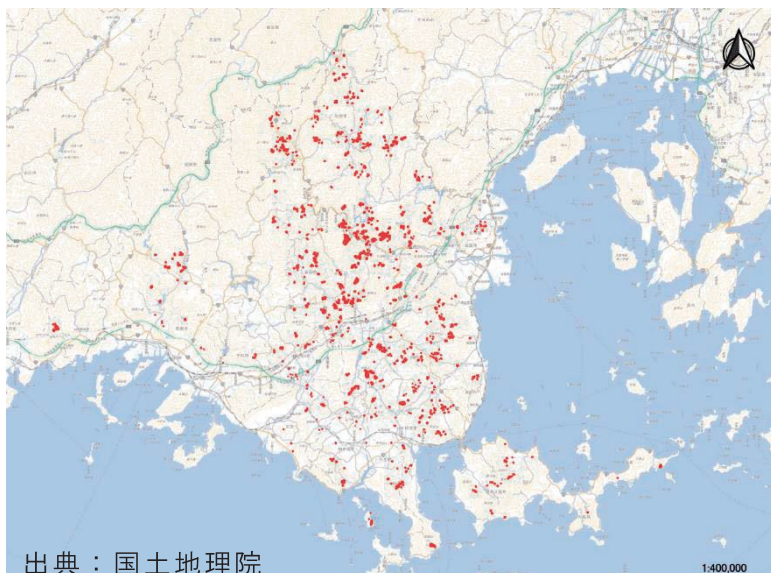
令和7年7月3日には岩国市錦町に錦バイオマスセンターがオープンし、脱炭素社会実現に向けて取り組んでいきます。

○事業内容

高性能林業機械等を活用した川上から川下までの低コスト素材生産及び流通体制の整備、皆伐後の植栽作業、高所作業や危険木特殊伐採工事、バイオマスチップ製造・流通、ドローンによる山林調査（測量）及び情報解析、資源運搬等、錦川交流センター内において窯焼きピザをメインとするイタリア料理の提供、各種木工加工品や割木の販売等



2 森林Jークレジットに取り組む森林の所在や特徴



出典：国土地理院

(<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>)

地理院タイル（淡色地図）を加工して作成

○森林の所在

岩国市、周南市、下松市、光市、柳井市、和木町、周防大島町、平生町、田布施町、上関町

○所有森林の特徴

山口県東部森林組合及び子会社株式会社フォレスト所有山林内にて実施。

3 2025年12月末時点の取組状況

登録承認日	認証対象期間	実施面積	吸収見込量
2025.9.30	2026.4.1～2034.3.31	227.83ha	9,974t-CO ₂

※登録承認日及び認証承認日は、Jークレジット制度認証委員会の開催日

4 森林Jークレジットに取り組んだきっかけ（経緯・理由）

山口県東部森林組合では、従前より、地域の森林を守り、育て、豊かな森を未来に引き継いで行く活動に取り組んでいます。一方で、近年、『SDGs』や『カーボン・オフセット』など持続可能性や地球環境保全というキーワードに係る様々な活動が広く社会的に認知、実行、希求されるような情勢となってきました。

このような背景のもと令和6年度、当該プロジェクトに係る有期的なチームを創設し、計画書の作成及び登録申請を行いました。

対象とするのは、昨今の木材価格の低迷による森林所有者の森林経営意欲の減退や後継ぎ問題など、森林管理に困った森林所有者からの相談を受け、(株)フォレストが長い期間をかけて取得、管理してきた森林です。今後8年間、CO2削減効果が見込まれる森林を継続的に経営管理することで得られるCO2吸収量をクレジットとして取得する計画としています。

5 苦労したこと、工夫したこと

作成したプロジェクト計画書の内容を審査機関に提出し、正式な登録へとフェーズを進めるため、「妥当性の確認」を依頼しました。「妥当性の確認」では、主にプロジェクト計画の方法論との適合性、活動内容の実効性・実現可能性、事業期間や対象森林に関するデータや根拠の妥当性などのポイントが審査されます。

当組合が作成したプロジェクト計画書についても、吸収量の算定根拠の記載方法や森林整備活動の具体的な実施体制などの点で指摘を受け、何度も計画書の修正を行いました。苦労の甲斐あって、ようやく「妥当性の確認」の門を通過し、令和7年8月19日付けで正式にプロジェクト登録申請が完了しました。

6 伝えたいこと（アピールポイント、販売方法など）

木材価格の低迷や後継者不足などにより、管理が行き届かなくなりつつある森林に対し、長期的な視点で森林整備と経営管理を継続することで、CO2吸収量という「見える価値」を創出することが可能となりました。

本取組で創出されるクレジットは、地域の森林を守り育てる活動の成果であり、持続可能な森林管理の推進にも寄与するものと考えています。

クレジットの販売方法等については、今後、制度趣旨や地域性を踏まえながら、活用方法を検討していく予定です。



山口県東部森林組合

所在地 山口県岩国市周東町下久原 1038-1

連絡先 0827-84-2111

URL <https://yeforest.org/>



◆ 山口県西部森林組合

2026 年中の登録、2027 年度～2028 年度の認証・発行を目指し、取組中です。

1 概要

○これまでの歩み

平成 9 年 4 月 1 日下関市、長門市、菊川町、豊田町、豊浦町、豊北町、三隅町、日置町、油谷町の 9 組合が合併し、山口県西部森林組合が発足しました。

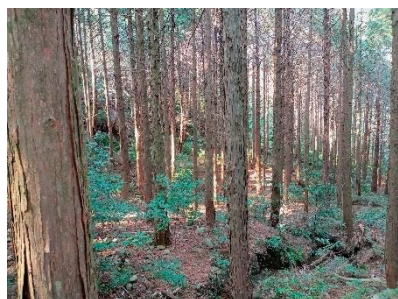
管内森林面積：73 千 ha（内人工林：30 千 ha） 組合員数：10 千人

※令和 7 年 6 月 1 日現在（概数）

○事業内容

請負・受託事業による森林整備、利用期を迎えた森林においては搬出間伐を中心に事業を展開するほか、支障木伐採や環境整備事業にも取り組んでいます。

木工品の制作販売や各種イベントに参加し、木の持つ魅力についての発信を行っています。また、下関・長門市内の製材所の協同組合組織である「ウッドネット西部やまぐち協同組合」の事務局を務めています。

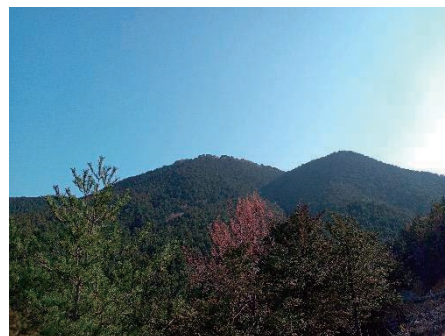


2 森林Ｊークレジットに取り組んだきっかけ（経緯・理由）

長門市においては、森林に対する関心の低下や、森林所有者の高齢化等により未整備森林が増加している地域があるなか、当プロジェクトの実施により得られた利益にて未整備森林を解消することをきっかけに環境保全や持続可能な地域社会の実現を図りたいと考え、当プロジェクトに取り組むことを決めました。

3 取組状況（苦労していること、工夫していること、伝えたいことなど）

現時点での取組状況としては妥当性確認を受けるためのプロジェクト計画書を作成している段階で、まずはプロジェクト計画が登録されるよう事務手続きを進めていきます。販売先等について現時点においては何も決まっていますが、環境保全や地域の課題解決と一緒に頑張って取り組んでもらえるようなパートナーシップが構築できるよう努めていきたいと考えています。



山口県西部森林組合

所在地 山口県下関市豊田町中村 853-13

連絡先 083-766-0180

URL <https://www.ywf.or.jp/>



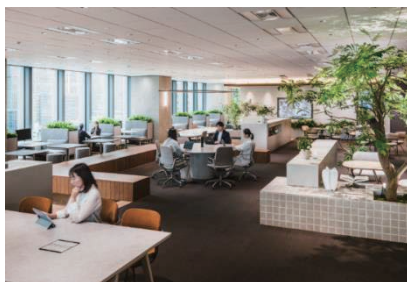
【事例集】

森林Ｊーケレジット購入事例

◆株式会社イトーキ

1 会社概要

1890年創業。ミッションステートメントに『明日の「働く」を、デザインする。』を掲げ、オフィス家具の製造販売、オフィス空間デザインなど、“Tech×Design based on People”を強みに、さまざまな「空間」「環境」「場」づくりをサポートしています。2011年からカーボン・オフセットに関する事業を開始。Jークレジットプロバイダーとして、多様で豊富なクレジットの提供や、創出支援などのサービスを提供しています。



2 森林Jークレジットを購入した経緯

当社は、Jークレジットプロバイダーとして、さまざまなお客様の脱炭素に向けた取組の支援や、商品・サービスへの活用支援を行っています。

継続的に事業を行っていく上で、多様な由来のクレジットを、安定的に調達していくことが重要となっており、今回、山口県の森林保全への取組に共感し、クレジットの購入をさせていただきました。

プロバイダーとして、適切な管理のもとに創出されたクレジットを、多くのお客様にご活用いただき、カーボンニュートラル社会の実現に向けて貢献を進めていきます。

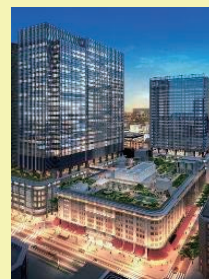
3 森林Jークレジットのメリット

Jークレジットのなかでも、森林クレジットは地域性があることが特徴となっています。

また、森林JークレジットはCO₂の吸収を行う方法論であることから、地域の環境に貢献でき、社会貢献活動のPRに繋げやすいことも大きなメリットです。

株式会社イトーキ

所在地 東京都中央区日本橋 2-5-1
日本橋高島屋三井ビルディング
連絡先 03-6910-3196
URL <https://www.itoki.jp/lp/carbon/>



◆東洋鋼鋅株式会社

1 会社概要

当社は、ぶりきなどの表面処理鋼板を中心に、高機能な金属材料を提供する素材メーカーです。飲料缶や食缶、電気・自動車分野など幅広い産業を支える製品を展開し、独自技術による高品質・高付加価値なものづくりを強みとしています。

環境経営にも積極的に取り組んでおり、自社設備の省エネルギー化をすすめるとともに、再生可能エネルギー（オンサイトおよびオフサイトでの太陽光発電電力など）の導入や燃料転換の推進などを通じて、2050年のカーボンニュートラル社会の実現を目指します。



2 森林Jークレジットを購入した経緯

当社は表面処理鋼板や磁気ディスク用アルミ基板の製造に多くの水を使用しています。人びとの生活や企業の生産活動に欠かせない水を育む森林において、保全整備や適切な管理を推進するという主旨に賛同し、クレジットの購入を決定しました。

3 森林Jークレジットのメリット

森林Jークレジットは他のクレジットと異なり、生物多様性の保全や水源涵養、地域経済への貢献など非炭素プレミアム価値を有しており、その点を評価することが重要だと考えます。CO2削減を目的とした単なるクレジット購入にとどまらず、環境価値を社会に還元し、次世代に健全な森林環境を残していくことや地域貢献につながる大きなメリットと感じております。

この取組を通じ、山口県内の森林保全が推進され、生物多様性の維持や水源涵養、そして林業の活性化につながることを期待しております。

東洋鋼鋅株式会社下松事業所

所在地 山口県下松市東豊井 1302 番地の 1
連絡先 0833-41-3131
URL <https://www.tkworks.jp/>



◆株式会社 日本旅行

1 会社概要

日本旅行は、1905年創業の日本で最も歴史のある旅行会社です。「旅行」を通じて多くのお客様の満足を想い、心豊かな人生の彩りを創るお手伝いをしてきました。この先、多様な価値観の芽生える新時代においても、アライアンスパートナーの皆様と、旅行業の可能性を広げ新たな価値の共創をする「顧客と地域のソリューション企業グループ」に進化し、地域の社会課題の解決に貢献してまいります。

2 森林Jークレジットを購入した経緯

日本旅行 SDGs 宣言

1. 健やかで、不公平のない、豊かで活力のある生活を創ります。
2. 私たちに恵みを与えてくれる自然とその美しい景観を守ります。
3. 個々の文化への理解を促し、平和で公正な社会づくりに寄与、貢献します。

当社では2019年12月に上記のSDGs宣言をしており、2021年2月から旅行でJRや航空を利用した往復の移動により排出されるCO2を実質ゼロにするカーボン・オフセットプログラム「Carbon - Zero (カーボン-ゼロ)」に取り組んでおります。

すでに36道府県の企業・自治体から購入させていただいており、JR・航空機セットプランにて販売させていただいております。中国エリアで未購入であった山口県で吉川林産興業株式会社様がJークレジット発行に向けて動かれていると他県で購入させていただいた企業様からご紹介をいただき、認証前より購入のお話をさせていただいておりました。

3 森林Jークレジットのメリット

- ① 環境保護: 森林の保全や再生を促進し、二酸化炭素の吸収を助けることで、地球温暖化対策に寄与します。
- ② 生物多様性の保護: 森林の管理や保護を通じて、さまざまな生物の生息地を守ることができます。
- ③ 地域経済の活性化: 森林の管理や保全活動により、地域の雇用創出や経済活動の促進が期待されます。
- ④ 持続可能な開発の推進: 森林資源を持続可能に利用することで、次世代にわたって自然環境を守ることができます。
- ⑤ 企業の社会的責任(CSR): 企業が森林Jークレジットを取得することで、環境への配慮を示し、社会的責任を果たすことができます。

株式会社 日本旅行

所在地 東京都中央区日本橋 1-19-1
日本橋ダイヤビルディング 12 階

連絡先 03-6895-7790

URL <https://nta-corporate.jp/>



◆一般財団法人 山口県環境保全事業団

1 会社概要

当事業団は山口県における産業廃棄物の適正処理を行うとともに、環境保全に関する各種事業を行い、本県の快適な生活環境の保全と産業の健全な発展に寄与することを目的として設立されました。

事業内容

- ①産業廃棄物の最終処分及び一般廃棄物の埋立受託業務
- ②環境保全活動の助成業務

活動拠点

- ①本部事務所（山口市大手町9番11号）
- ②東見初管理事務所（宇部港東見初広域最終処分場：宇部市大字沖宇部字沖の山525番103）
- ③新南陽管理事務所（徳山下松港新南陽広域最終処分場：周南市臨海町6番地）



宇部港東見初広域最終処分場



徳山下松港新南陽広域最終処分場

2 森林Jークレジットを購入した経緯

- ①2050年カーボンニュートラルに向け、購入したJークレジットを削減困難なCO2排出量をオフセットできるよう蓄積すること
- ②県内で削減・吸収したCO2をJークレジットとして購入することで、CO2排出削減・吸収プロジェクトの支援を行うことが可能と考えたこと

3 森林Jークレジットのメリット

- ①削減困難なCO2排出量をオフセットできること
- ②CO2吸収プロジェクトを支援できること
- ③上記の取り組みを紹介することにより、環境保全に対する積極的な姿勢をPRできること

一般財団法人 山口県環境保全事業団

所在地 山口市大手町9番11号

山口県自治会館2階

連絡先 083-920-6828

URL <https://yamaguchi-khj.or.jp/>



参考

- J-クレジット制度事務局. “国内における地球温暖化対策のための排出削減・吸収量認証制度（J-クレジット制度）実施要綱 Ver.8.5”. J-クレジット制度. 2026-01-09. <https://japancredit.go.jp/about/rule/>, (参照 2026-02-05)
- J-クレジット制度事務局. “国内における地球温暖化対策のための排出削減・吸収量認証制度（J-クレジット制度）実施規程（プロジェクト実施者向け） Ver.11.4”. J-クレジット制度. 2026-01-09. <https://japancredit.go.jp/about/rule/>, (参照 2026-02-05)
- J-クレジット制度事務局. “国内における地球温暖化対策の ための排出削減・吸収量認証制度（J-クレジット制度）モニタリング・算定規程（森林管理プロジェクト用） Ver.3.12”. J-クレジット制度. 2026-01-09. <https://japancredit.go.jp/about/rule/>, (参照 2026-02-05)
- J-クレジット制度事務局. “国内における地球温暖化対策のための排出削減・吸収量認証制度（J-クレジット制度）方法論策定規程（森林管理プロジェクト用） Ver.3.5”. J-クレジット制度. 2025-09-12. <https://japancredit.go.jp/about/rule/>, (参照 2026-02-05)
- J-クレジット制度事務局. “森林経営活動 Ver.6.4”. J-クレジット制度. 2026-01-09. <https://japancredit.go.jp/about/methodology/>, (参照 2026-02-05)
- 林野庁. “森林由来J-クレジット創出者向けハンドブック”. J-クレジット. 2023-03-31. https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/J-credit.html, (参照 2026-02-05)
- 林野庁. “森林吸収系J-クレジットの非炭素プレミアム価値（生物多様性保全等）を訴求するための手引き”. J-クレジット. 2025-03. https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/attach/pdf/J-credit-62.pdf, (参照 2026-02-05)
- 林野庁. “森林吸収系J-クレジット事例集”. J-クレジット. 2024-02. https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/attach/pdf/J-credit-57.pdf, (参照 2026-02-05)
- 国土交通省国土地理院. “地理院タイル一覧”. 国土交通省国土地理院. <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>, (参照 2026-02-05)

＜お問合せ先＞

山口県農林水産部森林企画課林業企画班

〒753-8501 山口県山口市滝町 1 - 1

TEL : 083-933-3464 FAX : 083-933-3479

E-mail : a17700@pref.yamaguchi.lg.jp